

■米国：PJM が容量市場の改善策として DR の落札制限を提案

地域送電機関のひとつである PJM は 2013 年 11 月 26 日、同機関の運営する先渡し容量市場制度 (RPM) における需要反応 (DR) 容量の落札方法に関する変更を連邦エネルギー規制委員会 (FERC) に申請した。今回の提案は 2011 年実施のオークション (2014 年度供給分) で追加された、「Limited DR」と呼ばれる、運用回数と運用時間を限定した特別入札枠を制限するというものである。2011 年以降のオークションでは比較的に入札価格の低い「Limited DR」の落札が相次ぎ、結果として、年間を通して運用できる電源等の供給容量が減るとともに、落札価格が低く設定されるという事象が問題視されてきた。この「Limited DR」は、参加需要家を募り易くする目的で設置されたものであるため、今回の提案には主に DR プログラム実施側から反対の声が上げられ、規定される PJM 会員の 2/3 の承認を得られなかった。そのため今回の提案は、「PJM Staff Proposal」という形式をとることで、FERC に判断を委ねる格好をとっている。本件の他にも RPM 制度の改善に係る提案として、管外からの容量入札を制限する案が FERC に提案された。